

平成31年2月21日(木)

夏井川河口付近

もはや遠く離れてしまった、子ども時代の夏井川河口付近は、できたばかりの磐城舞子橋のたもとから降りていくとちょっとした空間があり、釣りの糸を垂らすことができた。ミミズかゴカイを針に付け、ポンポンウキをつけて川面に垂らすとハゼやオイカワやフナなどの小魚が良く釣れた。汽水域でいろいろな魚がとれる場所だった。

河口付近から海岸線に平行に流れる横川は、四倉町細谷の原高野川を超え、四倉の下仁井田を通して、仁井田川河口までつながっている。川沿いに、いたるところに四手網が仕掛けられる小屋が点在し、時に四手網を使って川魚漁をしているのを見取れているときもあった。松林の中を横川沿いに歩くと、ミステリアスな雰囲気があって、父親や年長の人の歩く速さに負けまいとついていくとき、どこまで進むのかと恐ろしくなったのを肌感覚で覚えている。

今や、夏井川河口の川の両側の土手は、震災以降とても高く増築されて、はるか下に水鳥がおよいでいるのを見ることしかかなわない。カワウが群れたり、猛禽類の大きな鳥が飛んだり、カモが集団であちらことらと泳ぐのを見ていると、今の時代にこんなところがあったのかと驚いてしまう光景である。

新舞子ハイツのわきの滑津川にしても、川伝いに津波が遡ったということである。夏井川沿いにさかのぼった津波は、平の街中の新川にまで到達したという。堤防すれすれまで水が押し寄せたと見ていた人が言ったと聞いた。そんな恐ろしいこともあったのかと驚いてしまう。

夏井川河口付近では昔からウナギ採りも盛んで、母の子ども時代などは、よく夏には夏井川のウナギを採って食べたと話しているのを聞いたことがある。このごろになっても、夏井川の河口付近で取れたウナギだとかば焼きでもってきてくれる親戚のおばさんがいて、そのうまいことと言ったら「半端ない」。

秋には鮭もさかのぼり、平商業の近くの小川に鮭が泳いでいたりバシャバシャうごめいていたりするというのはよく聞く話である。

河口は、海に流れ入っていないようだ。海の高さに比べて、河口の水面のほうが低いと感じるのは私だけだろうか。舞子橋を渡って、反対側の堤防を歩いていくと、バードゴルフ場などが整備されており、車でも行き来できるようになっている。鬱蒼とした葦の林の中を舗装道路があり、最後は堤防の上を通りながら遠く平の町付近まで続いていく。川は時にうねうねと曲がり、堤防もそれに沿って増築されるので、基本的には西から東に流れている川なのだが、思いのほかずいぶんと南に下ったり、北に向かったりするところがあって、歩いてみないとわからない部分が多い。

地元をいざ改めて歩くと面白いと思う。これからは、歩きながら、水石山や二ッ矢山付近の風景や、雲の流れと風のおいなどを楽しみつつ、いろいろな新発見を重ねてみたいと考えている。



